

# 湖東圏域の病床状況について

1

## 令和7年度第1回湖東圏域地域医療構想調整会議(書面開催)について

### 湖東圏域の病床数

病床の種類	病床数(A) (2025.9.1 時点)	医療構想 推計必要 病床数 (B)	A - B
高度急性期	14	82	△68
急性期	541	355	186
回復期	156	293	△137
慢性期	255	284	△29
休棟	119	0	119
合計	1,085	1,014	71

#### 【委員から出た意見】

・慢性期の患者が湖北からの流入が多く、湖東地域の患者の転院を圧迫していることに関して何か対応しているか？

・数字で病床を見ると急性期が過剰で回復期・慢性期が不足している。病院間の調整も含めて、今後この数字を病床の転換などで是正していく予定なのか？

2

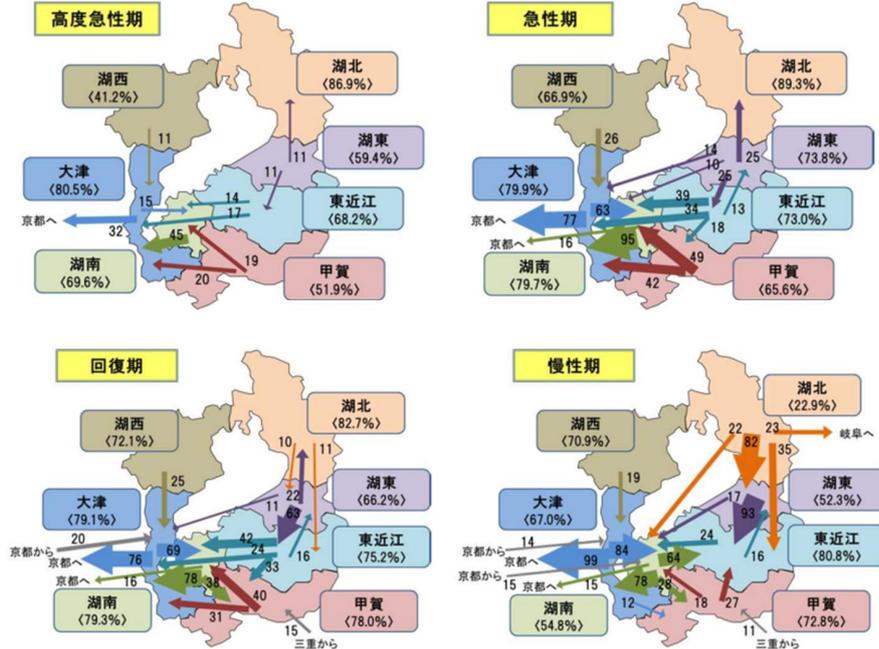
# 滋賀県地域医療構想計画策定時の推計

○慢性期患者については、湖北からの流入が非常に多く、同等数が湖東より東近江等の他圏域に流出すると推計されていた。

## 4 患者動向

○機能別患者流出入数の推計(2025年)

※単位: 人/日(10人未満は非公表) ※%は区域内完結率 \* 2013年のレセプト実績に基づき算出



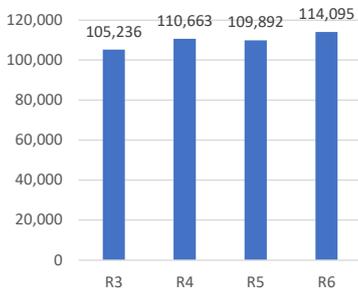
3

【出典】滋賀県地域医療構想

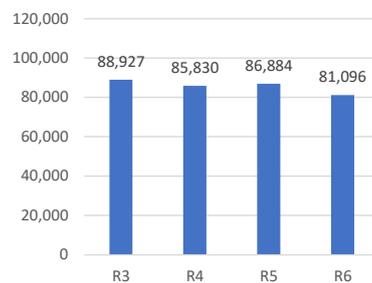
# 在棟患者(入院患者)延べ数(年間)

○在棟患者(入院患者)延べ数は4病院全体で減少傾向。

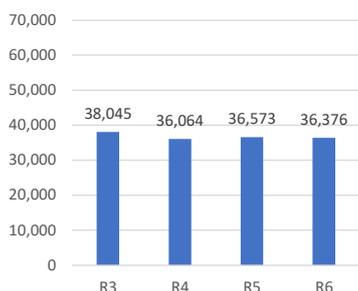
彦根市立病院



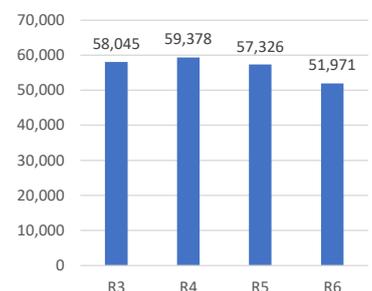
彦根中央病院



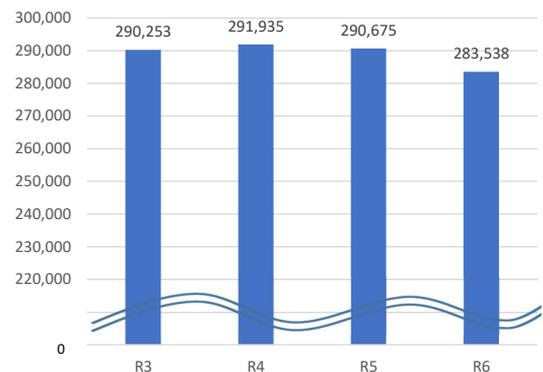
友仁山崎病院



豊郷病院



4病院全体



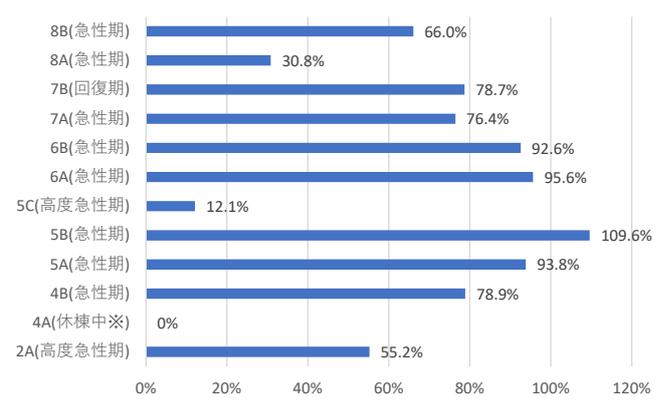
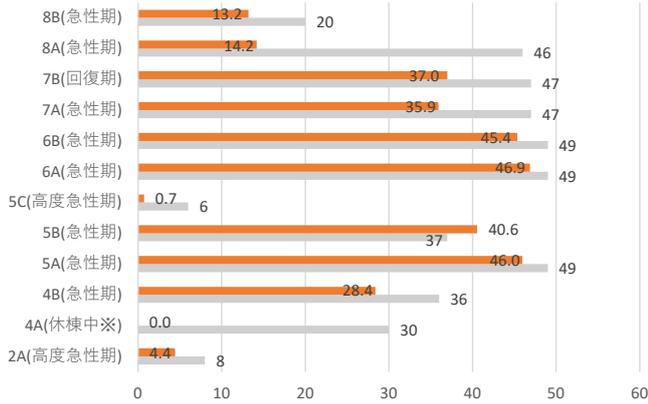
4

【出典】令和3～6年度病床機能報告

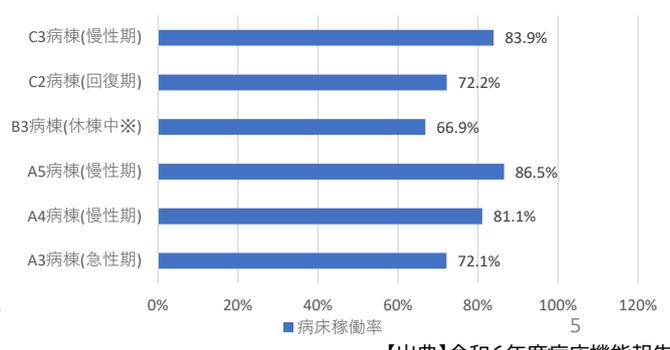
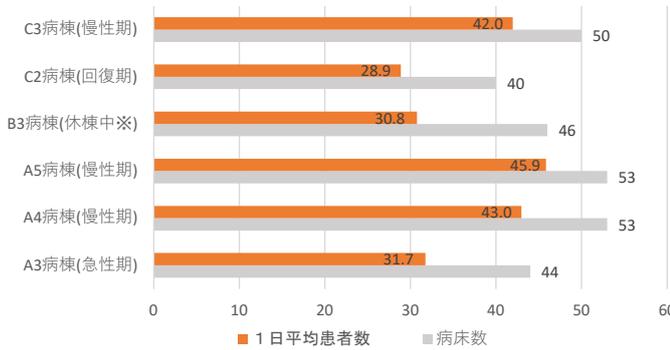
# 1日平均患者数と病床稼働率

## 彦根市立病院

※令和6年(2024年)7月1日時点で休棟中



## 彦根中央病院

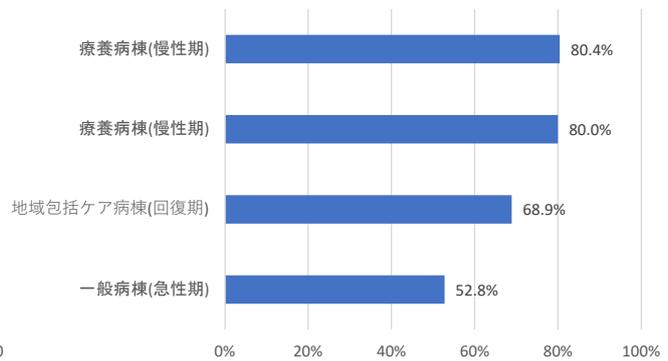
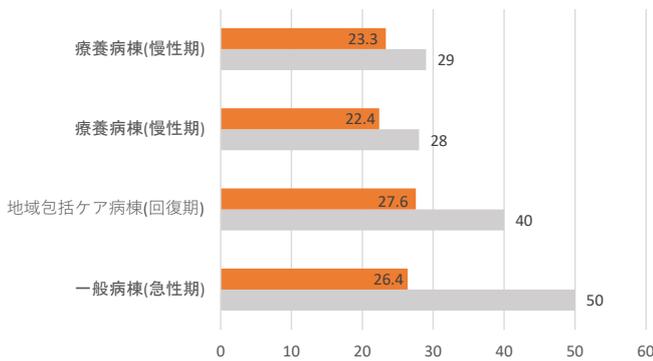


【出典】令和6年度病床機能報告

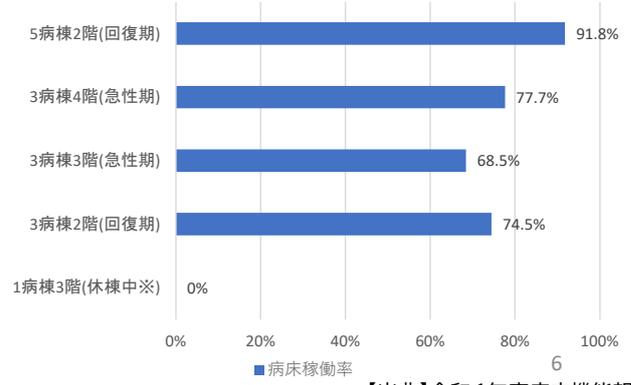
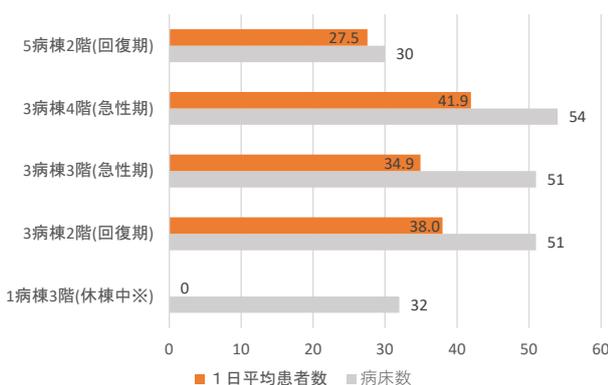
# 1日平均患者数と病床稼働率

## 友仁山崎病院

※令和6年(2024年)7月1日時点で休棟中



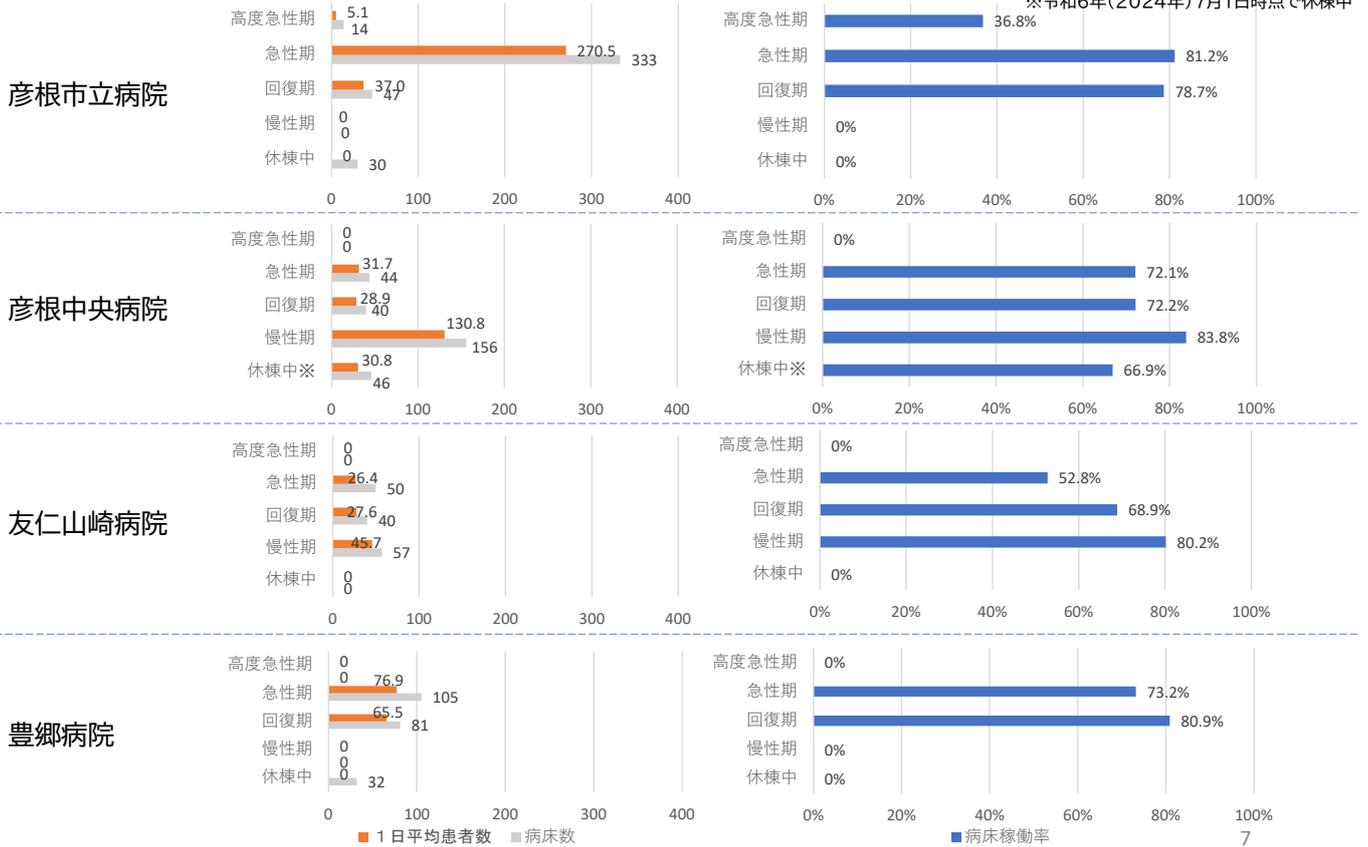
## 豊郷病院



【出典】令和6年度病床機能報告

## 1日平均患者数と病床稼働率

※令和6年(2024年)7月1日時点で休棟中



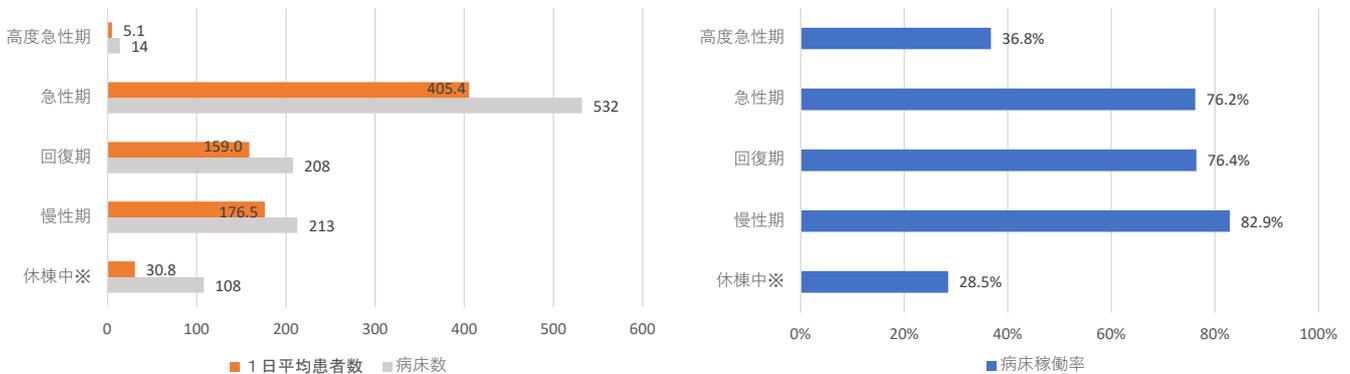
【出典】令和6年度病床機能報告

## 1日平均患者数と病床稼働率

○病床稼働率は高度急性期の病床を除いて、約7~8割程度。

※令和6年(2024年)7月1日時点で休棟中

### 4病院全体

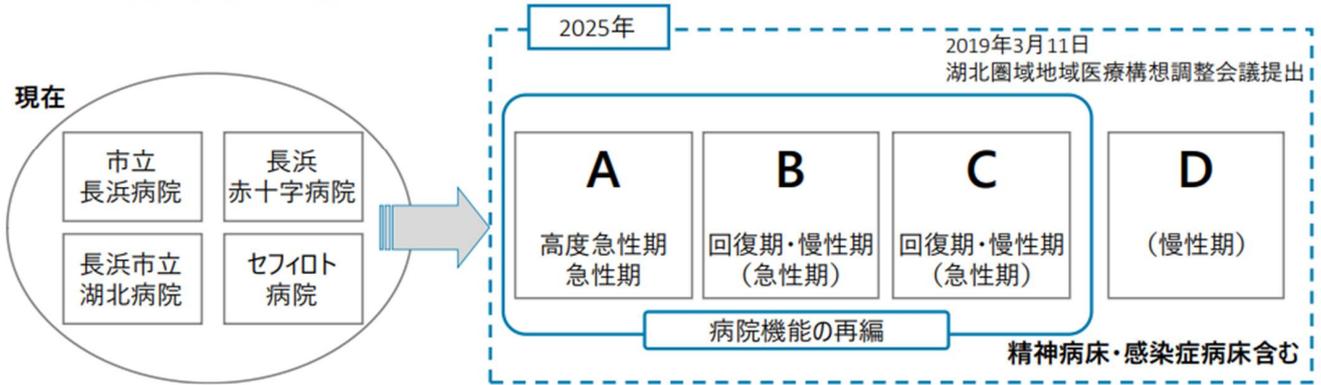


## 湖北圏域の再編について

湖北圏域の病院再編については、令和元年度第1回湖北圏域地域医療構想調整会議(令和元年(2019年)8月1日)において、「高度急性期・急性期の患者を診る病院(A病院)」と、「回復期・慢性期(・急性期)の患者を診る病院(B病院、C病院)」の機能別の病院に再編し、これにセフィロト病院を加えた湖北圏域における病院機能の再編イメージ案について協議され、現在の協議・検討の基礎となっている。

### 湖北圏域における4病院の再編イメージ

#### 2025年までの再編案(イメージ図)



9

【出典】湖北圏域における病院ビジョン(概要版)

## 湖北圏域の再編について

病院再編後のA・B・C病院の病床規模については、一定の幅をもって検討されている。

- 過剰な高度急性期・急性期の病床数を適正化する。
- 将来にわたって、湖北圏域の患者を受け入れ可能な病床数を確保する。
- 病床稼働率を複数パターンで設定し、想定される病床規模の幅を確認する。
- 収支面を含め、湖北圏域で医療提供を持続可能な病床規模とする。

検討の結果、令和17年(2035年)付近で必要と想定される病床規模は、A・B・C病院の合計で864～1,214床程度と見込まれている。

病床規模 検討パターン	病床	稼働率	全体 (床)	市立長浜病院			長浜赤十字病院		長浜市立湖北病院
				市立長浜病院	長浜赤十字病院	長浜市立湖北病院	長浜赤十字病院	長浜市立湖北病院	
現状の病床数	高度急性期	-	266	87	179				
	急性期	-	619	374	197	48			
	回復期	-	133	52	46	35			
	慢性期	-	109	52	0	57			
令和5年度 病床機能報告	精神	-	70		70				
	(内、感染症)	-	4		4				
	合計		1,197	565	492	140			

全体	A病院	B病院	C病院
864～1,214床	574～664床	170～430床	120床

10

【出典】湖北圏域における病院ビジョン(概要版)

## 湖東圏域地域医療構想調整会議の経過～病床機能～ (令和4年度～令和6年度)

### 湖東圏域地域医療構想調整会議における病床機能の整理

病床の種類	病床数 (A)	医療構想 推計必要 病床数 (B)	A - B	調整会議での整理
高度急性期	14	82	△68	彦根市立病院の急性期病床のうち、高度急性期病床の役割を果たしている病床も相当数ある。 <b>数値上不足しているものの、病床増加に向けた取り組みは行わない</b> 方向性としている。(R4)
急性期	541	355	186	一部高度急性期や回復期の機能を果たしている病床があり、実情よりも大きな数値となっている。ただ、 <b>不足する回復期機能の充実に向けた取り組み</b> を行う方向性としている。(R5)
回復期	156	293	△137	少子高齢化により、2025年以降も需要が増加する見込みであり不足している。R5以降さらに病床数が減るため、 <b>回復期機能を充実させる</b> 方向性としている。(R5)
慢性期	255	284	△29	湖北からの流入が非常に多く、同等数が湖東より東近江等の他圏域に流出している。(医療構想) 湖北の病床機能の変化を把握しながら、需要の増加する在宅医療の体制を整備する必要がある。(医療構想)
休棟	119	0	119	看護師不足による休棟が生じている。(R4～R6) 一定期間休棟の状態が続く場合は理由や再開見込み等について確認し、休棟のまま維持することについて検討を要する。
合計	1,085	1,014	71	

### 湖東圏域 病床機能の分化・連携

①医療構想推計必要病床数の病床数と真に必要な病床数にはギャップがある。

⇒現場の状況を確認し、真に不足する病床を判断する必要がある。病院の役割分担(次スライド参考)がうまくでき、スムーズに連携できていることが重要である。

②医療構想における必要病床数は、2015年推計時点の他圏域流出入量が不変と仮定した場合の値である。

⇒他圏域の医療提供体制が変わると、湖東圏域の必要病床数も変化する。

③医療構想の慢性期病床の必要量は、医療資源投入量が少ない方等が在宅(施設含む)へ移行されることを見越して推計されている。

⇒在宅への移行が滞っていると、見かけの数値以上に慢性期病床が不足する。介護の供給体制を整えておくことも重要である。

湖北から患者の流入はあるが、現時点では湖東の病床は空いており、余剰がある。入院患者数が減少しており、湖東の転院が阻害されていることはない。

湖北圏域では将来にわたって、自圏域の患者を受け入れ可能な病床数を確保できるよう検討されている。

今後、湖北の再編によって将来どうなっていくのか注視していく。

(参考)連携強化・役割分担明確化のイメージ

